

JICA横浜 教師海外研修とは

独立行政法人国際協力機構（JICA）が主催する、国内事前研修、海外での現地研修、国内事後研修で構成される国際理解教育・開発教育実践のための研修プログラムです。

訪問する国の歴史、現状、人々の生活、国際協力などについて学び、国際理解教育・開発教育の実践者育成と推進を目的としています。

2024年度研修概要

対象教員：神奈川県および山梨県の教員

参加者：小学校教員4名、中学校教員4名、高等学校教員3名（合計11名）

渡航国：ブラジル連邦共和国

研修期間：2024年6月～2025年3月（海外研修は8/4～8/17）

研修回数：渡航前国内研修3回、現地研修2週間、帰国後国内研修3回

研修テーマ：「多文化共生・移民」

研修参加者からのメッセージ

多様性が尊重される社会、多文化が共生する社会の実現を目指し、より多くの子どもたちに学びを届けるために、多くの先生や大人たちに私たちの学びや気づきを共有したいと考え、このワークを作成しました。

ホームルーム、朝の会、または授業でご活用ください。このワークの他にも、私たちの研修報告書、研修での学びを短くまとめた動画、多文化共生通信などを作成しました。

以下のQRコードからご覧ください！



独立行政法人国際協力機構 横浜センター（JICA 横浜）

〒231-0001 横浜市中区新港2-3-1

TEL:045-663-3253 / FAX:045-663-3265

Email:yictpp@jica.ca.jp / <https://www.jica.go.jp/yokohama>

2024年度JICA横浜 教師海外研修参加者作成

多文化共生ワーク

これどういう意味??

●ねらい(知ったり考えたりしてほしいこと・揺さぶりたい価値観)

- 日本語で基礎教育を受けたブラジル日系1世と、ポルトガル語で基礎教育を受けた2世とのコミュニケーションツールとして「コロニア語」が生み出されました。
- 世代間で使用言語が異なる＝家族内での使用言語が異なる人々がいます。
- 文化(言語を含む)は静的ではなく、常に変化し続ける動的なものであること、 $A+B=C$ のように、新たな文化を生み出すことの重要性に気づいて欲しいという思いがこのワークには込められています。

●使い方

- ①これ、どんな意味だと思う？
- ②これは、かつて日本からブラジルに移住した人たちの間で今も使われている「コロニア語」(ブラジルにおける日本語とポルトガル語のミックスです。)
- 「さあ早く市場に生きのよい魚を買いに行こう」という意味です。

●学習者の気づき(引き出せそうなこと)

必要に応じて言語も自然に変化するのかと気づいた
文化も時代や環境によって変わることがわかった
今も家庭内で使う言語が違うという状況があるようだけど、
もしかしたら身近にもいるかもしれないと思った

●使用場面

言語に関連したワークなので、「言葉」や「生活」に関係した授業の導入におすすめです。
6年生社会科「世界のなかの日本とわたしたち 日本とつながりの深い国々」の単元でブラジルが取りあげられています。
日系人、移民というキーワードが出てくるので、この単元のつかみ(導入またはまとめ)としても活用いただけます。

さあ早く
メルカードさ行って
生きのよいパーシエを
コンプラせにゃ